



鳥取県の砂防整備促進と コンクリート構造物の重要性について

近年、気候変動の影響により、従来の想定を超える集中豪雨や線状降水帯が頻発しています。地形が急峻で、多くの危険渓流を抱える我が鳥取県において、土砂災害対策は県民の生命と財産を守るための最優先課題です。今月は、本県の砂防整備の現状と、地産地消の建設資材である生コンクリートが果たすべき役割について提言します。

1. 鳥取県の砂防整備における「30%」の衝撃

「鳥取県砂防基本計画」および関連資料によれば、県内には土石流の危険がある渓流が約3,000箇所存在します。しかし、現在までに対策が完了している箇所の割合、いわゆる整備率は約30%前後に留まっています。

全国平均と比較しても、本県の険しい地形や豪雪・多雨という気象条件を考慮すれば、この数字は決して楽観できるものではありません。未整備の渓流下流には、避難に時間を要する高齢者施設や学校、病院といった「要配慮者利用施設」も多く点在しており、これらの「空白地帯」を埋める砂防堰堤の新設は、一刻の猶予も許されない喫緊の課題です。

2. 「老朽化」という新たなリスクへの対応

新設と並び、深刻化しているのが既存施設の老朽化です。国土交通省の「砂防施設の老朽化対策基本方針」では、建設後50年を経過する施設が今後20年間で加速度的に増加することが示されています。

本県においても、昭和40年代から50年代にかけて集中的に整備されたコンクリート堰堤が更新時期を迎えています。摩耗や劣化を放置すれば、本来の防護機能を果たせなくなる恐れがあります。既存のストックを活かし、コンクリートによる腹付け補強や嵩上げ等の「長寿命化対策」を講じることは、新規建設に比べてコストを抑制しつつ、確実な防災効果を発揮する現実的かつ有効な手法です。

3. 「地産地消」がもたらす防災レジリエンスと環境性能

砂防事業における資材選定において、地元産生コンクリートの活用には、単なる経済活動を超えた「三つの公的意義」があります。

- **災害時の即応体制**：ひとたび土砂災害が発生した際、道路や河川を緊急復旧させるために不可欠なのが生コンクリートです。平時から地元工場が砂防事業を通じて安定稼働していることは、有事の際の「地域の復旧力（レジリエンス）」を担保することに直結します。
- **環境負荷の低減**：地元の砂利や砂を使用し、現場近くの工場から供給される生コンは、遠方から長距離輸送される他県産資材（鋼材等）と比較して、輸送に伴うCO2排出量を大幅に削減できます。これは「脱炭素社会」を目指す本県の施策とも合致するものです。
- **耐久性と経済性**：重力式コンクリート堰堤は、過酷な自然環境下でも100年単位の耐久性を誇り、将来のメンテナンスコストを最小限に抑えます。

4. 提言：コンクリートは「守りの要」

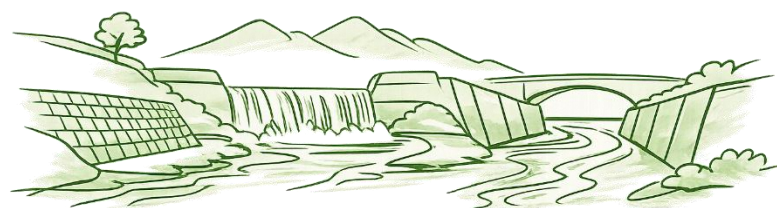
政府の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の期間中である今こそ、本県においても砂防予算の重点的な確保と執行が求められます。

私たち生コン会社は、高品質な資材の安定供給を通じて、県土の安全・安心を足元から支え続ける覚悟です。コンクリート構造物という「守りの要」を県内全域に整備し、災害に強い鳥取県を次世代に引き継ぐこと。そのためには、行政と地元産業界が一体となった強力な事業推進が不可欠です。

「命を守る砂防」の加速へ。今、確かな一歩を踏み出す時です。

【出典・参考資料】

- ・内閣官房「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」
- ・国土交通省「砂防施設の老朽化対策基本方針」
- ・鳥取県「鳥取県砂防基本計画」および「県土整備計画」



会計検査



『公共工事と会計検査』の改訂8版より「会計検査こぼれ話」をご紹介します。
一息ついて読んでいただければ幸いです(^-^)/

著者の市川 啓次郎(いちかわ けいじろう)氏は昭和19年生まれ。
元会計検査院 国土交通総括検査室長を務められていました。

会計検査こぼれ話：現場へ行かない担当者

現場の実情の疎い発注者の増加が問題になっていますが、それに関して最近聞いた話。話してくれたのは現在、某団体の局で工事の検査をしている担当している友人です。

工事事務所へ足を運ぶ機会が多いのですが、ある事務所の職員が担当している大型工事が最盛期を迎えているにもかかわらず、いつもの自席におり、現場に出向いている様子がありません。不思議に思った友人が「なぜ現場へ行かないのか？」と尋ねたところ、職員は、自分が現場へ行っても誰も相手にしてくれず、やることがないので行かない。現場はすべて施工管理の人が取り仕切っており、自分が入りこむ余地はなく、それどころか現場の人たちにかえって迷惑顔をされるので、現場へは足を運ばないと言われたそうです。これまで大きな工事を実際に担当したこともほとんどないので、現場で働いている重機などについても良くわからないとのことでした。

これには友人も驚き、せっかくこんな大規模工事を担当できるチャンスに恵まれたのだから、できる限り現場に足を運び何でも質問すること、例えば、動いている重機があったら、機種や規格を聞く、とにかく恥をかくことを恐れず、現場に人たちに何でも聞いて、一つずつ覚えていくしかない自分の若いときの経験に基づいて話をしたといいます。

これに似た話は別の団体でも耳にしました。団体では、団塊の世代の大量退職に伴いこの数年、相当数の技術職を採用しました。採用試験にはいわゆる一流大学から多数の応募があり、そのなかから成績優秀な人を採用したということです。ところが、この人たちを現場に配置したところ、今まで考えられないようなトラブルが頻発し、その対策に頭を悩ませているというのです。

「現場の荒廃」とは、最近のある専門誌の特集見出しですが、決して誇張ではなく、深く確実に進行していることを、身近に感じた友人の言葉でした。 (K)





レオちゃんの製品紹介コーナー

◆◆ アートスラブ ◆◆

こんにちは！ライオン通信のレオちゃんです♪



今月は、コンクリートスラブ『アートスラブ』のご紹介です。

土木・建築をはじめ、使い方は様々！
規格や仕上げ（アート模様、ホウキ仕上げ）など、お客様のご要望に幅広く対応します。

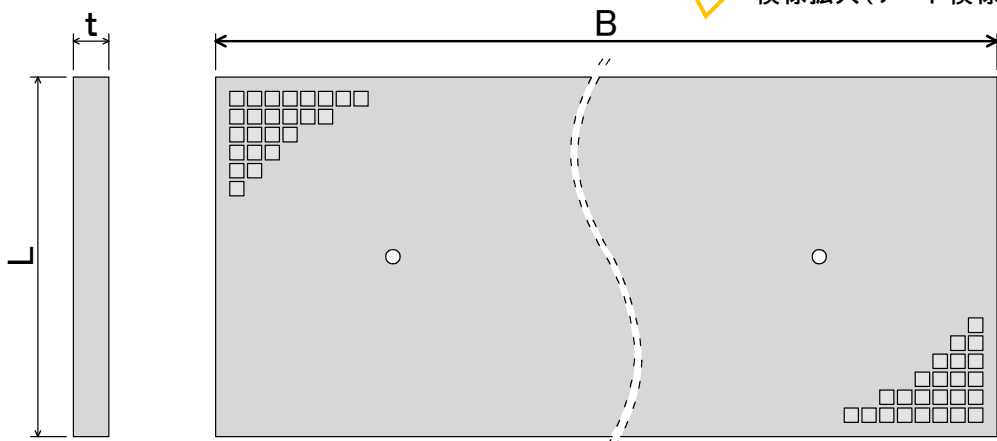
近年、全国から「斜切・地覆付・開口部付などの特殊な製品はできないか？」とのお問合せを頂くことも多くなりました！
今回は、特長と様々な形のスラブ、最近納品した製品をご紹介します！

是非ご検討下さい♪



模様拡大(アート模様)

::: 製品図(基本型) :::

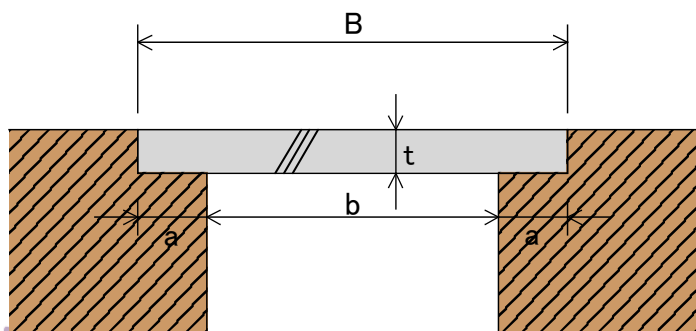


特長

- ◆ 設計荷重T-2～T-25に対応しています。
- ◆ 製品上部は滑り止めになるアート模様を設け、安全性を確保しました。



::: 支承部 :::



::: 製造可能サイズ :::

	長さ(L) (mm)	幅(B) (mm)	厚さ(t) (mm)	設計荷重
最小サイズ	1000	800	100	T-2 ~ T-25
最大サイズ	1000	5000	350	

	(mm)					
製品厚さ (t)	100	125	175	225	275	325
標準支承幅 (a)	150	250	300	400	450	500

::: 設計荷重(活荷重) :::

種類	自動車荷重 (総重量)	車両形態
T-2	2 t	歩道・軽車両
T-6	6 t	小型車両
T-14	14 t	中型車両
T-25	25 t	大型車両

長さ・幅は 100mm 刻みを標準としています。
上記以外の寸法・役物については、別途お問い合わせ下さい♪



施工事例

穴開き・台形・斜切など、様々な形の製造が可能です♪
表面の模様もアート模様だけではなく、ホウキ仕上げなども対応
しています！



3600×1000×225 T-10 (地覆・開口付、アート模様)



鳥取市に納入した地覆付・開口付のスラブです。『除雪作業を安全・簡単にできないか』というご要望により、開口を設けた製品を製造しました。開口部から河川に雪を落とす事により、道路幅員の狭い環境でもより安全に作業ができます。グレーチングは取り外し可能です。

3100×1000×225 他 T-14 (ホウキ仕上げ)



鳥取市国府町の糸谷川に納品しました。
大型の特注スラブで、奥側の2枚が長方形、手前側3枚が斜切製品になっています。
地覆は現場打ちとなっており、取り付け用のインサートを製品に入れ込みました。

5500×750×250 T-2 (カラー・擬石模様)



岩美町の山陰海岸国立公園内に納品したカラースラブです。自然木製の橋梁が架かっていましたが、老朽化により崩落したため、コンクリート製の橋梁としてスラブが使用されることになりました。景観にマッチした茶色を使用し、地覆部の表面には擬石模様を施しました。

◆ ◆ ◆ 編集後記 ◆ ◆ ◆

一気に暖かくなり、春の訪れを感じる季節となりました。
新年度を迎え、環境が変わる方も多いのではないのでしょうか。
新しい出会いや挑戦に心が弾む一方で、少し慌ただしさも感じる時期かもしれません。
この通信誌が新しい皆さまの一助となれば幸いです。
(土田)

